



『ピカピカの1年生』

愛の手を

パフテスト心身障害児(者)を守る会

第175号

発行責任者
社会福祉法人 パフテスト心身
障害児(者)を守る会
重症心身障害児施設 久山療
育園重症児者医療療育センター
理事長 山田 雄 次
編集責任者 馬 原 哲 治
福岡県粕屋郡久山町大字
久原 1869
☎代 (092)976-2281
FAX (092)976-2172

「ともに生きる」ということ

診療部長／理事 渡辺 浩行

いでしょか？

私が久山療育園で勤務を始め、早いもので一年が経ちました。重症心身障害児者施設に勤めるのも、キリスト教の理念に基づく施設で働くのも、私には初めての経験です。その事に戸惑いはありませんでしたが、改めて考えさせられる事は沢山あります。

働きだしてしばらくして考えるようになったのは、果たして今まで私は、私のまわりの人たちと「ともに生きてきたか？」ということです。

私は昭和60年に、母校である産業医科大学第2外科学教室に入局し、気がつけば30年という月日が経ちました。思えば、新米医師として最初に教えられたのは、「患者さんの側にいる」という事でした。いろいろな検査結果はもちろん大事ですが、患者さんの表情、訴え、手のぬくもり、呼吸、脈の強さ……。こうした患者さんに接して、触って得る情報や印象は、臨床医にとってもっとも大切です。しかし、大きな手術の後や、意識もない重篤な状態で、患者さんからのサインにいち早く気がつく為には、常に側にいて実際に見て、触っている事が必要です。

ちょっととした指先の冷感や呼吸の乱れが、大きな異常の徴候だった事をしばしば経験し、側にいることの重要性を身を以て知る事が出来ました。

こうして「側にいること」は「ともに生きること」と相通じていたのではな

医師として仕事をしていると、その時点の医療では対処する事のできない状況にもしばしば遭遇します。いわゆる終末期を迎えた患者さん、ご家族と接することは、苦しんでいるのになす術を持たぬ医師としては、辛いことに違いありません。しかし、病室が遠く感じることもあっても、彼らのことを客観的に理解できるとしたら、それは自分たちしかいないことも解っていました。ただ話を聞くことしか出来なくて、脈を取ることしか出来なくて、私達が側にいなくてはいけないのです。そんな時に、患者さんの心の声が聞こえたような気がする事があります。医師が患者さんに「生かされている」瞬間です。

「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」当時はまだ知らなかった聖書の言葉ですが、彼が我を助け、我が彼を助けることが、本当のひととの繋がりを作ることができるのだと思います。久山療育園では、利用者の誰もが、私たちに「生きる事」を教えてくれます。外科医としての経験しか持たない私には、まだ彼らに何が出来るとはわかりませんが、側にいることから始めたいと思います。

主張

第二次在宅支援プロジェクト

工事開始の年に臨んでの思い

理事長 山田 雄次

皆さまからのお祈りとお支えの中で久山療育園重症児者医療療育センター（以下久山療育園）の第2次在宅支援プロジェクトの取り組みを推めることが出来ますことを感謝致します。

この度建築工事費の一部を募金によって充当する予算立てを行い、向こう3年間で3000万円の建築募金を募りましたところ年度半ばからの開始にもかかわらず初年度目標を越える1476万円の募金が寄せられ励まされました。ご支援を頂く中で思われることは皆様からのご支援の中に込められた期待に応え、重症児者医療療育センターとして、時代の流れの中で担うべき課題を使命感をもって取り組んでゆかなければならないということでもあります。

2014年度は建築工事の着工と完成、そして開設に向けた職員採用及び入居者の決定と受け入れ等、開設前年として事業推進の大詰め段階を迎え職員はじめ関係者一同緊張感をもって新しい歩みを踏み出しました。タイムスケジュールに沿って肅々と課題を推し進めてゆくことになりました。在宅支援の拠点としての「在宅支援棟」の建設と合わせ、在宅家族から期待が寄せられた重症児者の新しい受け皿としての共同生活介護事業「ケアホーム」*がこの2014

年度の取り組みを通して実現することを思い内心を奮い立たせています。皆様からのご支援に対する感謝を表す意味を込め、この取り組みに臨むこれからの思いを述べさせて頂きたいと思えます。

新しい事業の取り組みとして重症児者のための「ケアホーム」開設の取り組みがはじまると、直ちに在宅重症児者の保護者から強い関心と期待が寄せられました。その関心と期待の強さは建築募金の趣意書に載せられた保護者のことばに顕わされていますので、そのことを広く皆様に知って頂くため少し長くなりますが紹介させて頂きます。

「現在親子二人の生活の中、通園でお世話になっている状態で、子供36才、親70才、老後のことで心細くなっている現在、「ケアホーム」の開設のお話を聞き、親子として自立を目ざして頑張つてやってゆける事、期待して止みません。今後とも皆様にお力を頂ければ有難く思います」

「私のこどもも40才になります。共に最後迄が理想ですが現実には「親無き後をどうするか？」そんなことを考えると眠れない夜も多々あります。子どもの尊い命が守られ、快適に日々を送れるような施設を願って止みません。親も高齢になり不安の多い毎日。一日

も早い「ケアホーム」の実現を切に願っています」

「娘は人との出会いや新しい経験を楽しみに生活のすべてを他人にゆだねて生きています。そんな娘が愛おしくいつ迄も共に暮らしたいと思えます。私が介護出来なくなった時、人として生きてゆけるだろうか」といつも不安になります。そんな時頭に浮かぶのが久山療育園です。私達の心の支えになっています」

親の高齢化による将来の不安を拭い取る希望の拠りどころとして「ケアホーム」に期待を寄せておられる親の思いが込められたことばです。

2012年度多くの注目が寄せられる中で福岡県での重症児者の実態調査の報告が行われました。それによって在宅重症児者の生活の実態が浮き彫りとなり、非常に厳しい状況の中での重症児者支援の施策と新しい受け皿づくりが喫

緊の課題となつていくことが明らかにになりました。福岡県はそれに対する対応の1つとして医療型短期入所サービスの強化策として既存の介護老人保健施設を活用する方針を明らかにしました。そのことは良しとして、一方で障害の重度化や親の高齢化等の理由で入所施設の増設と増床のニーズが根強く継続してあるということも見過

ごしてはなりません。そしてそのニーズに反して入所施設の増設と増床が望めない現実の間で在宅重症児者の受け皿づくりが求められているのです。そうした状況の下で今、久山療育園が取り組みを推している第2次在宅支援プロジェ

クト、その中で「ケアホーム」の建設の取り組みは特別の意味があり、使命感をもって取り組んでゆくべき課題であると認識しています。

重症児者医療・福祉の将来について、例えば10年後の重症児者のための入所施設での受け入れベツト数は、或る予測によれば半数に減少し、既存の入所施設の利用が超・準超重症児者をはじめとする医療的ケアを必要とする度合いの高い重症児者に重きが置かれ、その分医療的ケアの必要の度合いの低い重症児者の入所の枠が狭くなってゆく。重症児者のための「ケアホーム」の建設は、予想されるそうした流れの中で将来における受け皿不足の事態に備えての救済的な機能を果たす期待が込められているからです。

将来在宅重症児者に対する受け皿不足という事態が起こらないように、亦親無き後、残される子どもに、このことで親が悩むことなく安心して暮らしてゆくことが出来る福祉社会としてゆくためのテストケースづくりという意味を込め、重症児者のための「ケアホーム」づくり―その開設と運営を含めて―を成功させなければと思っています。

「ケアホーム」は介護を必要とする障害児者に対し夜間における共同生活の場（居宅）において身体介助、移動支援や居室の清掃等の生活援助を行う在宅サービス事業であり、本来特別に重い障害を負った重症児者を対象とした事業ではありません。しかし厳しい状況のもとにある在宅重症児者家

庭からの切実な在宅支援の訴えとして受け止め、その受け皿として医療的ケアの度合いの低い重症児者を対象としてそのニーズに添えてゆくとする取り組みです。

この取り組みは在宅支援サービスの対象をこれ迄になかった重症児者に広げようとするもので画期的な意味をもっていますが、重症児者が対象となるため人的配置を厚くする必要があるため人的配置の赤字決算となる厳しい面をかかえてゆくこととなります。当初は事業の内容とその意義を訴え、特別の支援によってまかなってゆくとしても将来的には行政を動かして、福祉制度の整備・改善を果たしてゆかなければ創造的な意味でのテストケースとはなりません。親の会とコロナ友の会、更に広く市民の方々との連携による運動の展開を通して課題の制度化を果す取り組みを進めてゆく覚悟が問われていると思うのです。

本文のはじめに2014年度を「緊張感をもって」、内心を奮い立たせて「新しい歩みを踏み出した」と書いたのはそんな思いがあつてのことでした。

皆様からの一層のお祈りとご支援を願つてやみません。

※新しい障害者総合支援法によるケアホームとグループホームの一体化により、今後は名称が「グループホーム（共同生活援助）介護サービス包括型」に変更となる。但し今回は「ケアホーム」の名称を使用。

「支える医療と緩和ケア概論」

重症心身障害医療福祉制度の変遷の中で

センター長 宮崎 信義

はじめに

重症心身障害児(者)をめぐる制度は、2006年度の障害者自立支援法施行、2011年度「改正障害者自立支援法(つなぎ法案)」施行によっても児者の制度が分離した制度になりました。そして2012年度新体系への移行――(入所)「障害児入所施設」(児童)・「療養介護事業所(成人)」、(通所)「児童発達支援事業(就学前)」・「放課後等デイサービス(学童)」・「生活介護事業」(成人)、2013年度の「障害者総合支援法」の施行という中で変動しています。しかし、「重症心身障害児」という名称や「療育」という視点が失われてはならないと考えています。特に重症心身障害医療は療育という視点に立つ医療が特徴で、「治す医療」から「支える医療」、すなわち生涯を通じて重症児者の安全・安楽・安心に寄与する姿勢が求められていることに変わりはありません。そこで年長化や合併症などの医療上の重度化に対する医療の在り方について緩和ケアの試案を考えて見ました。読者のご意見を頂ければ幸いです。

重症心身障害医療の基本姿勢

当園の創立理念にも基づいていますが、①「設立の目的」から――在宅及び入所重症児者のニーズに聴

く診療計画と実践。「在宅支援センター」への医療支援と地域医療連携。②「運営基本方針」から――歴史的なキリスト教医療の継承。③「療育基本方針」から――「久山療育園の療育」の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支える「QOL(生活の質・生命の質・人生の質)重視」。

重症心身障害医療の実践

先ず重症心身障害児(者)の個性・特性を理解し、合併症の予防や診療上「治癒を目指す医療」に努力しますが、特に外科手術などはご家族に説明した上で、重症児者本人の苦痛の軽減と機能の回復を重視します。苦痛除去のための非侵襲的医療は積極的にを行います。(例)酸素療法、吸引・吸入、排便調節、抗痙攣剤ほか対症療法。しかし緩和ケアの段階と判断された場合はご家族に説明し同意を得た上で「制限的医療」・「緩和的医療」・「看取りの医療」に徹します。そしてどのような病期にあっても、絆の尊重を大切に、家族やボランティア・職員との面会・交流を支えます。生活空間や時間の確保については、病室・宿泊室などや園内外での過ごし方を支える医療をチームで計画します。

「療育病院」「療育」の保持

「療育病院」としての重症心身障

害施設の役割を明確にし、入所(契約入所・措置入所・短期入所)、及び通所事業における健康管理・療育(活動やリハビリテーション)・介護・補装具の処方・障害児(者)歯科を実施致します。「チーム医療」から「チーム療育」への広がりや協働が必要です。一般に契約入所病床は通常は満床ですから短期入所病床を活用したり地域医療との連携に努めます。その他の地域の社会資源と連携すると共に、「在宅支援センター」においても、近い将来「訪問リハビリ」「訪問看護」「生活介護事業」「訪問診療」を体系化して行きたいと願っています。

家族との連携

①重症児者の意向の尊重――重度及び最重度の精神遅滞(知的障害)のある方や意識が低下している方では判断や自己意思の表示が困難な場合が多く、このような場合は、事前の意思表示や、代理決定を尊重することにします。②説明と同意(インフォームドコンセント)――本来はいかなる疾患であつても「知る権利」は尊重されるべきで、インフォームドコンセントの根本は医療者との意思疎通と信頼関係の問題です。重症児者もしくは親権者の理解力に応じた意思疎通の方法をとり、十分わかるように説明して、情報を一方的に伝えるのではなく感情を含めて共有することが大切です。

③代理決定――重症児者もしくは親権者の判断力が低下した場合、誰かが代って希望や意思を代弁しなければなりません。その場合、重症児者をよく知る人が、当人の言動から「判断能力があつたらこうするだろう」と考慮して判断する「代行判断」と、通常誰もが同じような状況に置かれた場合に選ぶ最善の方法を選択する「最善利益」の2つの考え方が大切になると言われています。日本では自分が判断できなくなった時に誰に判断してもらうかなどを、きちんと文書で残すことは少ないようです。重症児者の権利擁護には親権者や第三者を後見人とする成年後見人制度などの確立が必要です。

重症児者終末期医療について

①「生前指示書」Living Will(親権者・保護者による代理意思)の尊重。――家族との個別面談や重要事項説明の際に希望を聴取しています。重症児者が家族や周りの人に、常々どのような最期を望むと話しておられたかなどを聞くことは大切です。②悪性腫瘍などの緩和ケア期では疼痛のコントロールを積極的にを行います。③「支える医療」の姿勢――重症児者の年長化・高齢化に伴う摂食機能障害から誤嚥、長期臥床に伴う合併症(褥瘡や感染症)で非可逆的と考えられた方の医療的支援とQOL重視の姿勢に立ちます。④重症児者を中心に医療職・福祉職・事務職の連携を保つことが肝要です。

終末期ケアの基準

終末期の位置付けとしては、一般的に「現代的医療が可能な集学的治

療の効果が期待出来ず、積極的治療がむしろ不適切と考えられる状態で、生命予後が6ヶ月以内と考えられる段階」と言われています。また終末期ケア(ターミナルケア)の対象となる疾患・病態としては以下のようなものが挙げられます。①原疾患が進行性かつ不可逆のもの。②退行や変性疾患で、機能障害が通常の治療で回復が望めないもの。③悪性腫瘍などの合併症で、医学的治療により単なる延命以上の効果を得られないもの。④治癒を目的とする治療が延命の域を出ないか、重症児に著しい苦痛を与えるもの「疾患」。

ターミナルケアの基本姿勢としては、①治療者の自己満足ではないかなる治療手段をとらないこと、②積極的な緩和ケアを心がけること、③家族や職員との交わりを十分に保障することが重要です。

おわりに

重症心身障害児(者)の存在の尊さ(生命や生活、生涯の質)を支える重症心身障害医療の使命は重いものです。また専門性を大切にしつつ、領域を超えた総合(全人)医療・全人療育が深められていくことが望まれます。冒頭に挙げましたように、「児者一貫」や「療育」が伴ってこそ、このような医療が重症児者の必要と合致するのではないのでしょうか。時代や制度の変遷の中で以上のようにご教示を頂きました。読者各位からのご教示を頂きましたら幸いです。

2014年度(平成26年度)予算

2014年3月28日(金)開催の2014年度第3回評議員会、第6回理事会において2014年度の予算が審議され承認されました。
予算の概要については、以下の通りとなります。

2014年度 資金収支予算書(法人合計)

自 2014年4月1日 至 2015年3月31日
単位：千円

科 目 名	2014年度予算額
《事業活動による収支》	
(収入の部)	
児童福祉事業収入	3,099
障害福祉サービス等事業収入	427,970
医療事業収入	731,784
経常経費寄附金収入	11,000
受取利息配当金収入	2,595
その他の収入	6,031
事業活動収入計①	1,182,479
(支出の部)	
人件費支出	826,011
事業費支出	119,564
事務費支出	72,579
事業活動支出計②	1,018,154
事業活動資金収支差額③=①-②	164,325
《施設整備等による収支》	
(収入の部)	
施設整備等寄附金収入	10,000
施設整備等収入計④	10,000
(支出の部)	
固定資産取得支出	344,150
施設整備等支出計⑤	344,150
施設整備等資金収支差額⑥=④-⑤	△ 334,150
《その他の活動による収支》	
(収入の部)	
積立資産取崩収入	328,150
サービス区分間繰入金収入	5,660
その他の活動収入計⑦	333,810
(支出の部)	
積立資産積立支出	158,325
サービス区分間繰入金支出	5,660
その他の活動支出計⑧	163,985
その他の活動資金収支差額⑨=⑦-⑧	169,825
予備費支出⑩	0
当期資金収支差額合計⑪=③+⑥+⑨-⑩	0
前期末支払資金残高⑫	285,708
当期末支払資金残高⑪+⑫	285,708

※久山療育園 拠点区分(1拠点)
法人本部、療養介護事業、医療型障害児入所施設、短期入所事業、生活介護事業、地域生活支援事業、児童発達支援・放課後等デイサービス事業、指定一般相談支援事業、障害児相談支援事業、指定特定相談支援事業、障害者相談支援事業、障害児等療育支援事業(12サービス区分)

2014年度(平成26年度)予算概要

2014年3月18日 総務委員会提出
2014年3月28日 理事会・評議員会提出

I.全体として

1. 入所については、契約入所87床、措置入所1床、短期入所6床、計94床体制で行う。通所については、上限利用者数19名で行う。但し、通所における日中一時支援事業は基本的に短期入所事業の請求とする。
2. 「在宅支援プロジェクト」第二次基本計画に基づき、用地購入、設計・建築業者等の支払いを実施する。費用は将来計画特定積立預金より支出。完成は翌年度となる為、今期は建設仮勘定として計上する。
3. 一般的には、診療報酬改定(-1.26%)及び消費税増税対応(+1.36%)実施により全体としては、0.1%の引き上げとなる。当センターが影響を受ける主な要因は、障害者等入院基本料(10:1)の単価増による約560万円の増、外来診察料単価増等である。
4. 事務費、事業費全般については2014年4月よりの消費税増税(5%→8%)による支出増を反映した。

II.収入について(前年度予算対比)

1. 医療事業収入については診療報酬改定及び実績増により、入所(100万円増)・外来(460万円増)・その他(70万円増)総じて630万円増となる。
2. 障害福祉サービス(入所・短期入所・通所その他事業)においては、在籍日数増により180万円増。
3. 相談支援事業においては、在宅利用者のニーズに応える為のサービス増により80万円増。
4. 障害児等療育支援事業収入については、実績減により約40万円減。
5. 「在宅支援プロジェクト」計画による建築のための募金として、3ヶ年の募金目標3,000万円の内、2014年度は2年目となり、昨年同様1,000万円を法人本部の施設整備等寄附金収入へ計上する。但し、一般献金・指定献金の一部は共に、「在宅支援募金」への移動により、470万円減。

III.支出について(前年度予算対比)

1. 人件費については主に「在宅支援センター」立ち上げ準備人員確保のため、総額約1,350万円増となった。また定期昇給、社会保険料対象人員増・社会保険料率改定・退職共済掛金人員増等も要因となっている。
2. 事業費については、総じて約870万円増。増加要因としては、医薬品費実績増及び消費税増税に伴う水道光熱・給食材料・物品・医療消耗品費他単価増等による。
3. 事務費については、ほぼ昨年度同等額計上。今期は、消費税増額により支出増となるが、2013年度実施された、LED工事380万円等の大きな支出が無く、修繕費等が減額される為。
4. 施設整備等による主たる支出として、在宅支援プロジェクト関係では、用地購入約1,400万円・業者支払約3億1,410万円を固定資産取得支出として計上。器具・備品(1品目10万円以上)に於ける主たるものは、福祉システム一式・他医療備品更新等総額1,600万円計上。予算対比620万円増。

IV.積立金

将来計画積立金9,534万円、施設整備積立金6,278万4千円、人事管理調整積立金20万円、奨学積立金1千円、合計1億5,832万5千円を計上した。

ご協力ありがとうございました

(2014年1月1日〜3月31日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

筑紫野南キリスト教会 日本バプテスト連盟諫早キリスト教会 鶴川シオン幼稚園 日本バプテスト連盟久留米キリスト教会付属めぐみのその幼稚園 天使幼稚園 水戸バプテスト教会女性会 (宗) 日本バプテスト伊集院キリスト教会 伊集院幼稚園 愛隣幼稚園 日本基督教団福岡警固教会 手作り品売上 認定こども園聖泉学園潮来幼稚園・潮来ひかり保育園 日本キリスト教団門司大里教会 企救バプテスト教会 日本基督教団旭東教会 (学) 大塚平安学園 ドレーパー記念幼稚園 平野満幸周船寺第二幼稚園 日本キリスト教団東村山教会 (学) 西南学院 筑紫教会鈴木岩夫 (宗) 日本基督教団福岡城東橋教会 高知伊勢崎キリスト教会 くずめよし 豊前キリスト教会 中村正子 日本キリスト教団松戸教会 西落合キリスト教会 日本バプテスト連盟南光台キリスト教会 岡田りつこ 日本キリスト教団東郷教会こどもの教会 (学) 西南女学院 真愛幼稚園 福岡女学院幼稚園 (学) 西南学院 西南学院中学校・高等学校 福岡西部バプテスト教会松藤一作 日本バプテストシオン山教会 日本基督教団福岡中部教会

日本基督教団八幡西教会 福岡女学院看護大学宗教部 若松バプテスト教会 八幡バプテスト教会 手作り品売上 福岡城西キリスト教会 鳴友学園女子中学高等学校 奉仕委員会 日本バプテスト広島キリスト教会 日本バプテスト連盟久留米キリスト教会 大牟田フレンドシップキリスト教会 捜真女学校中学部・高等学校 日本基督教団奈良高畑教会 仙台バプテスト教会幼稚園 筑波バプテスト教会 銚子諸聖徒教会 関西学院宗教活動委員会 (学) 稚内ひかり幼稚園 栗田昌直 日本バプテスト連盟徳島キリスト教会 田隈バプテスト教会 百合丘キリスト教会 (宗) 日本バプテスト連盟南名古屋キリスト教会 福岡女学院中学校・高等学校宗教部 直方バプテストキリスト教会 大坪敬子 日本基督教団隠岐教会 名越美智子 公益財団法人福岡YWCA 日本バプテスト連盟高松常磐町キリスト教会 阿部直子 恵泉バプテスト教会 鳥栖キリスト教会 栗ヶ沢バプテスト教会 西南学院バプテスト教会兄弟会 東洋英和女学院中高 平尾バプテスト教会 聖路加国際病院礼拝堂 又野貴志 室蘭バプテストキリスト教会 日本バプテスト女性連合 後藤敏雄 日本キリスト教団福岡女学院教会

聖ミカエル幼稚園 防府バプテスト教会 久山町組合助成金 北九州キリスト教会 日本バプテスト連盟堺キリスト教会 福岡女学院大学宗教部 匿名 (以上1,305,493円)

指定献金

該当無し

建築献金

宇美キリスト教会 平尾バプテスト教会子どもクリスマス 木下康一 青山好子 堂前弘子 久山療育園献金箱 楠田真知子 バプテストコロニー友の会(久山デイ) 粕屋バプテスト教会 井上ひろみ 梅崎正広 自由ヶ丘キリスト教会 嘉久明子 匿名 若林博子 春日原キリスト教会 大迫裕男 山田雄次 永瀬正臣 後藤敏雄 吉富恵知子 伊藤江美子 金丸真 藤永ウラ子 (以上4,608,589円)

【施設会計】

一般献金

SDA土佐山田キリスト教会 聖学院小学校 日本キリスト教団香里教会 法蓮寺仏教婦人会 加藤由貴子 市川幼稚園・ひかりの家学園 日本基督教団武雄教会 旭幼稚園 大西祥恵 岡久凱・恭子 渋谷バプテスト教会 青山学院中等部 日本バプテスト春日原教会 高田幸枝 福岡特別支援学校訪問教育 (以上213,686円)

献品

松永洋子(手作り品) 平野満幸 (お菓子) 峰瞳(ノート) 児湯キリスト教会女性会(石嶽・タオル・おしぼり・バスタオル) 松本秀子(卓上吸引器) 村上嘉彦(洗剤) 平川成(手作り品) 上尾キリスト教会(タオル・石嶽) 藤壽美子(手作り品) 日本バプテスト広島教会(タオル・石嶽・エプロン・バスタオル) 又野洋子(手作り人形) 防府バプテスト教会女性会(タオル・おしぼり) 野田文子(タオル) 馬原哲治(タオル) 目白ヶ丘教会女性会(エプロン・バスタオル・おしぼり) 富里キリスト教会女性会(エプロン) 上尾キリスト教会(タオル・バスタオル・石嶽) 堀敏子(手作り人形) 山本俊次(粉コーヒー) 高瀬孝介 (お米) (以上51,530円)

コロニー友の会扱い献金

(2013年10月1日〜2014年3月31日) 常盤台バプテスト教会 日本バプテスト女性連合 福岡国際キリスト教会 平尾バプテスト教会 岐阜バプテスト教会 黒瀬博 南小倉バプテスト教会 下関バプテスト教会 篠崎キリスト教会 東大阪キリスト教会 川崎バプテスト教会 宇都宮キリスト教会 古賀バプテスト教会 江波キリスト教会 株式会社マルゼン 洋光台キリスト教会 東京北キリスト教会 福岡西部バプテスト教会 花野井バプテスト教会 児湯キリスト教会 鹿児島基督教会壮年会 福岡ベタニア村教会 仙台北バプテスト教会 福岡有田バプテスト教会 今治バプテスト教会 長崎バプテスト教会 浦和キリスト教会 西福岡のぞみキリスト伝道所 福岡キリスト教会 鹿児島基督教会 静岡キリスト教会 広島キリスト教会 山形キリスト教会 富野バプテスト教会 日本バプテスト四日市教会 鯨バプテスト教会 松本蟻ヶ崎キリスト教会 木村大地 郡山コスモス通りキリスト教会 金沢キリスト教会 金沢キリスト教会めぐみ幼稚園 横浜戸塚バプテスト教会 宮崎キリスト教会少年少女会 枝光キリスト教会 市川大野キリスト教会 赤塚バプテスト教会 日本バプテスト京都教会 松見俊 平塚バプテスト教会 小倉キリスト教会 上尾キリスト教会 キムラオッチョ あゆみの家キリスト教会 市川八幡キリスト教会 田隈バプテスト教会 牟田逸雄 荏田キリスト教会 高須キリスト教会 榎谷悦子 大杉ちか M・L Tシャツ献金 友岡富江 折尾愛真短期大学ボランティア部 (以上1,084,517円)



支援者からの声 第九回

「ともに育つ」

伊集院キリスト教会

協力牧師 麦野 賦



私が、重症心身障碍児(者)施設
久山療育園の開設を知ったのは、
1976(昭和51)年、伊集院教会
牧師就任まもなくのことであり
ます。教会には幼稚園があり青少
年や幼児とともに過ごす日々は
楽しく充実していました。

以来、クリスマスには教会や幼
稚園に呼びかけて、久山療育園に
献金や手作りタオルエプロンな
どを送ることが恒例になりました。
しかし、ある時、久山療育園を
訪問し入所者や職員の生活を見
聞するうちに、自分はいかに漠然
とした考えでいたのかと深く考
えさせられました。

伊集院教会では、青少年育成活
動として、毎年夏に開催される
ワークキャンプ等に子どもたち
を派遣しています。2007年夏
のこと、教会員のU君(当時中1
年)が、久山療育園で学んだこと
と題してレポートしました。

「7月31日から3日間、福岡へ
3人(小6・リーダーと自分)で
行きました。目的は久山療育園で
のボランティア活動です。第1日
目は、草むしりで汗をかけた後に、
理事長から聖書のお話などを聞
きました。「療育園の願いは、」共
に生きる「ことだそうです。印
象には残りましたが、充分な理解
はできなかったように思います。

2日目は、オムツたたみ。僕た
ち2人は苦戦しながら少しだけ
しました。次は、ふれあいの時間。
最初、自信がありませんでした。
なぜなら、人と接するのが苦手な
僕だからです。心でお祈りしなが
ら病棟へ。ところが、歩ける子が
すぐに近寄ってきて手を引いて
連れて行こうとしますが理解で
きません。それがとても悔しかっ
たです。次に、本を読んであげま
した。そしたら口をぱっくり開け、
いやなときは舌をべーと出しま
した。なんだかとても嬉しかった
です。(中略)

障碍児から学んだことは、「共
に生きる」ということ。それは、
子どもたちの中にイエス様が生
きているということを知ったこ
とです。今度の体験をこれからの
信仰生活に生かし、神を愛し、人
を愛し、自分を愛して共に生きた
いと思います。」

私は、人権擁護委員として、鹿
児島県日置市の小学生・中学生に
人権教室を開いています。以下は、
子どもたちの声です。①目の不自
由な人は、心の目でしっかりと見
ておられる。②障碍のある人が
できないことを、周りの人が補う
という助け合いの心を持ち続け
たい。③自分がまずすべきことは、
障碍者に関心を持つこと、知ろう
とすること、学習すること、それ
を確かに伝えることが大切。(子
どもの意見集より)

私は、久山療育園の重症障碍児
者が、21世紀にあつて「世の光」と
して、輝く社会になることを希望
し、寄り添いつつ成長してゆきた
いと願っています。

「私には夢がある。私の子ども
たちがいつの日か、肌の色でなく
人柄によって評価される国に住
める日が来るという」上記は、ア
メリカ合衆国における人権差別
をなくすために、非暴力抵抗によ
る公民権運動を全米で指導し、後
に暗殺されたM・L・キング牧師
の有名なスピーチです。

「あなた方が私を選んだのでは
ない、私が選んだ。豊かな実を結
ぶために祝福し、任命する。互い
に愛し合いなさい。命令である」
は、主イエスが弟子たちに語った
言葉です。「主の選び・主の任命・
主の命令」は、人権尊重の出発点
だと思います。

日本国憲法は、国民主権・平和

主義と共に「基本的人権尊重」(第
11条)を基本原理としています。
「幸せにいきいきと生きる権利、
生命の尊さは、みな平等」差別や
暴力、いじめはあつてはならな
い「誰も生命を脅かされること無
く、生き生きと暮らすことのでき
る、幸せな社会を築くために、私
たちは何を考え、行動すればよい
のでしょうか。」



バプテストコロニー友の会

会長 伊原 幹治様
会員の皆様

感謝のことば

栄光在主

2013年度バプテストコロニー友の会から久山療育園献金として2,800,000円と第2次在宅支援プロジェクトの建築献金として763,497円の献金を頂きましたことに対し心からの感謝とお礼を申し上げます。

2012年度多くの注目が寄せられる中で福岡県による重症児者に関する実態調査が行われ在宅重症児者の生活の実態が浮き彫りとなり、障害の重症化や親の高齢化など非常に厳しい状況があり重症児者の在宅支援の施策と在宅重症児者の受け皿づくりが喫緊の課題となっているということが明らかになりました。

久山療育園重症児者医療療育センター（以下久山療育園）が今取り組みを進めている第2次在宅支援プロジェクト（在宅支援強化の拠点として「在宅支援棟」と在宅重症児者の受け皿としての「ケアホーム」の建設）はそうした厳しい状況の中での在宅支援のニーズに応えるものとして使命感をもって取り組むべき課題であると認識しています。

バプテストコロニー友の会の物心両面からの支援は使命感をもって新しい課題にチャレンジしようとしている久山療育園を励まし、常に前へと押し出す「希望と力の源」であります。

皆様からの祈りとご支援に込め2015年度での新事業の開始を目指し、新しい決意をもって歩み出したいと願っています。一層のご加鞭を賜りますようお願い申し上げます。

主にあつて 感謝

社会福祉法人

バプテスト心身障害児者を守る会 理事長 山田 雄次

久山療育園

重症児者医療療育センター センター長 宮崎 信義

「久山療育園のために チャリティコンサート」報告

「久山療育園のために」

2014 チャリティコンサート」は、今年、第16回目を迎え、3年前から西南学院大学チャペルで開催されていますが、今年は2月22日（土）に、毎年恒例となっています西南学院大学OBによる「テレベル

トグリーン」や昨年同様に「西脇八重子さんのパイプオルガンの演奏」（今回最後？）、さらにレベルを上げてきている「平和一丁目フラチーム」による楽しいフラダンス、そして、今年初めて参加の西南学院大学OBでかつて長年に渡って活躍

西南の船越寛治氏のお働きで、スムーズに開催できましたが、久山療育園の方や、キャンパスサポート西南の関係者や西南学院の関係者の特別なお働きによる協力によって、総じてうまく開催されたことを感謝いたします。

してきた「フオークメイツ」の再結成による出演で、楽しい音楽が加わり、開催されました。

最終的に、入場料収入や当日券販売や、当日の寄付金や西南学院のグッズ販売による収益金を合わせて、463,382円が実行委員会から久山療育園に送られました。今年も実行委員会では、西南学院大学宗教部・ボランティアセンター室長の篠田裕俊氏、キャンパスサポート



（バプテストコロニー友の会運営委員
学校法人西南学院
事務局長 高良 研一）

2013年度

「療育研究発表会」

演題1 ATP法を用いた配膳室床の清潔度改善方法の検討

給食サービス研究班 ○安里美 沙希 山藤朋子 本間ジュン 松岡芳和 ほか

ATP法を用いて配膳室床の清潔度を改善し、衛生管理向上を図る。

配膳室においては、靴の履き替えの徹底とマットに消毒液を散布することによって大幅にATP値が減少し清潔度が改善された。配膳室床を清潔に保つためには靴の履き替えと消毒液の散布が有効であり、さらに汚染状況に応じた床の清掃より清潔度が改善されたと思われる。

演題2 体動の多い気管カニューレ留置者の固定方法検討を振り返って

呼吸管理研究班 ○大坪愛 国崎愛 中雄隆司 藤島信也 森奈緒美 ほか

喉頭気管分離術後、気管孔の縮小・気管支軟化症を認め気管カニューレによる呼吸管理が必要になった体動の多い症例について、気管内肉芽や腕頭動脈瘻を予防のため、固定方やポジショニング吸引手技など職員間で援助方法の統一が必要である。

演題3 人工呼吸器装着者のプーリ活動マニュアル作成

在宅支援研究班 ○吉本法生 吉村優貴 入岡洋平 町田志磨子 古賀公俊 ほか

非侵襲的陽圧換気（以下NIPPVとする）を常時使用している利用者のプーリ活動の希望を受けた。今まで常時NIPPVを使用する利用者のプーリ活動の経験はなかったが、リスクを最小限にし、安全性を高めるため事前にマニュアルを作成し、シミュレーションを行なった後プーリ活動を実施しP-mSHLLモデルを用いて評価した。

演題4 当センターの外出サービスについて

めぐみ介護研究班 ○島津洋昭 山田いずみ 大重佐和子 寺田直人 古賀クミ ほか

利用者本人や保護者からの外出・帰省の際における送迎の要望があった。保護者の高齢化に伴い移動時の負担もあり、外出が実施できないケースあり「外出サービス」が開始された。今年度より良いサービスを提供する為、職員にアンケートを行い外出サービスを見直した。

演題5 実習指導方法についての一考察

学生指導研究班 ○山本由里子 吉本法生 山野祥子 村上和美 藤島信也 ほか

実習指導者が小児看護学実習における学生指導を行なう中で、「評価」「指導方法」などを指導者間の話し合いを行なった。今年度は受け持ち児となる入所者の指導のポイントを明確にした上で指導を行なった。指導者間で共通認識が出来、指導内容が明確になり、自信をもって指導・評価することが出来た。

演題6 個別のリラクゼーションを求めて

リラクセス研究班 ○新木ひとみ 永沼清美 原田真理 朝倉光治 今磯弘道 ほか

利用者は環境を自らの力で変えることが出来ず、気分転換ができないことが、ストレスになる可能性があると考えた。マッサージやアロマ・スヌーズレンなど利用者本人が好むと思われる遊びを通じてリラクセスに繋がる個別的対応を模索した。

演題7 直接介助職員の歯科への関心と介助の現状に関するアンケートの報告2

口腔衛生研究班 ○日高みどり 河野幸子 塩川恭英 中山京子 百本利雄

歯磨き介助業務に携わる直接介助職員の介助側の問題や課題について職種別、経験年数別の傾向を把握し、情報提供の方法や口腔衛生指導のアプローチ法を検討した。

演題8 リフトの導入におけるひかり棟の取り組み

リフト研究班 ○大坪壮志 山口真一 田代未来 土居慎太郎 土居勉 ほか

2013年2月からひかり棟へリフトの導入が開始され、基本的なリフト・スリングの使用法の理解と統一を図るため勉強会は開かれたが職員間でのバラツキが見られた。

使用マニュアルを作成し使用手順が明確になり職員間で操作手順の統一を図ることが出来た。また、利用者の安全の確保や不安の除去に繋がったと考えられた。

演題9 人工呼吸器装着患者の離床への取り組み

人工呼吸器研究班 ○長澤涼子 末松智子 高木美鈴 清水敦子 佐藤有美 ほか

人工呼吸器使用の利用者は、離床が妨げられメリハリのない生活になりがちである。そこで、ポータブル人工呼吸器のマニュアルを作成しスタッフに伝達して園の行事に参加できた。しかし、ポータブル人工呼吸器の取り扱いに慣れないスタッフでもマニュアルをみただけで理解できる内容へ追加・変更が随時必要である。

演題10 更衣を通して学んだこととQOLの向上についての振り返り

ひかり療育研究班 ○沖西亜美 宮原夏海 桐生亜沙美 荒金幸陣内晶子 ほか

今まで何気なく行っていた更衣を介助者が意識をして働きかけることで、対象者の能力の把握や可

能性が見いだされ、本人と家族の意識に変化が見られ他の活動への参加などQOLの向上につながった。

演題11 重症心身障害者の老化に伴う変化とその対策

ひかり棟看護研究班 ○本庄友美 大坪ゆき 野口恵 長井妙子 ほか

当園の入所利用者の平均年齢は41歳でその内50歳以上が38名（22%）65歳以上は5名（6%）である。60歳前後から老化・退行に関連した変化が見られた。現れる老化・退行の症状は個々に異なるが、運動機能・摂食機能の低下や意欲の減退・いら立ちなどの精神症状は共通していた。

演題12 節電への取り組みについて

管理棟研究班 ○松川寛 馬原哲治 中根史子 波田良 小脇勇二 宮章年 ほか

東日本大震災を教訓として始まった節電の重要性和発電コスト上昇により電気料金の上昇したことを受けて、職員に現状を伝え問題意識を持ってもらった。また、各部署が節電のアイデアを自ら提案しその内容を節電実施項目として掲げて、職員のコスト意識を高めることが出来た。

（2013年度研修委員長 めぐみ棟師長 百本）

発表者からの報告

今年3月、別府のコンベンションセンターで開かれた九州地区重症心身障害研究会に発表参加してきました。

多くの重症心身障害児者施設の各専門職の方々が参加されており、発表会場にもたくさんの方が聞きに来て下さいました。久山療育園の代表として発表をするのは大変緊張しましたが、なるべく聞き取りやすいようにと何度も練習をし、本番に臨みました。

私達の口腔衛生研究班は、利用者の方へ歯磨き介助を行っている職員を対象にアンケートを実施し、直接介助職員の歯科への関心と歯磨き介助の実状について調査しました。歯磨き介助に関する問題や課題を抽出していく過程で、介助する方と介助される方にとって、より良い歯磨き環境について考える良い機会となりました。

歯磨き行動は、私たちの生活ではとても身近な生活習慣行動の1つですが、認識に個人差が大きく、関心も様々であり、また、口の中という密室(?)であるために、その効果や評価などは見過ごされやすいものだと思います。

歯磨き介助をとおして、職員の方には利用者の方の健康維持という大きな役目を背負いながらも、

自身のスキルアップや、自信を持って楽しく仕事に取り組むことで利用者の方にお口と心と体の健康をもたらし良いスパイラルになればと、各病棟の歯科係さんといつも考えています。

私が5年前に久山療育園に来た時に利用者の皆さんのお口の中がきれいなことに大変驚きました。久山療育園では、30年以上も前から口腔衛生に力を入れており、口腔の清潔の重要性への意識を高く持ち続けていることで、利用者の方の『銀歯や詰め物の少ないきれいな歯』が現在も保たれているのだと感じます。

この研究会に参加し、他の施設の様々な職種の方の発表を通してみなさんが様々な課題を抱え、試行錯誤されて頑張っている姿を感じることができました。重症心身障害児者施設の歯科衛生士としてこれからも「きれいな歯の利用者さん」と「きれいな歯を守ってくれている介助職員さん」のためによりよい歯磨き環境を作っていくことに力添えできればと思います。

今回、発表するにあたり、たくさんの方々にご協力いただきました。またこのような発表参加する機会を与えていただき貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。

(歯科衛生士 日高)

発表者からの報告

今年の九州地区重症心身障害児学会は大分県別府市のビーコンプラザで行われました！当園からは、歯科とめぐみ棟からそれぞれ1題ずつ研究発表をさせて頂きました。そのうち、私はめぐみ棟の呼吸管理研究班による「長期気管カニューレ留置者の安楽な呼吸への取り組み」というテーマで発表をしました。

具体的には、呼吸障害が重度化し長期間気管カニューレを留置している対象者の気管内肉芽に着目しケア方法の見直しを行った経緯と、その結果を発表しました。研究方法としては、①胸帯・ポジショニングを見直し、カニューレの固定方法を検討 ②吸引手技を見直し、肉芽の評価をする為に気管支鏡による検査を施行 といったもので、①見直したポジショニングと胸帯の使用方法をスタッフで統一できた。②気管内肉芽は縮小し、吸引カテーテルの刺激による新たな肉芽も形成されなかった。③SPO₂、HRが安定した。という結果を報告しました。もちろん、気管内肉芽に対しては直接的治療が優先されますが、緊張の緩和、身体に応じた胸帯作製、姿勢管理、統一した吸引手技を行なうことは、肉芽縮小につながり呼吸

安定へ有効だということを発表しました。

現在、気管カニューレを留置している方や人工呼吸器を使用している方の当園利用が増えてきています。そして、今後さらに重度な障害を抱えた利用者さんを受け入れることにもなってくると思われます。様々な身体の特徴や疾患の特殊性に対応できるよう、今後も園の職員一丸となって、学習を深め、ひとりひとりに合った看護を提供できるように努めていきたいと思っています。

看護面以外でも、他施設から、医療、療育、介護、制度など様々な分野の研究発表があり、とても勉強になりました。興味のある方は、資料がありますので、いつでも声をかけ下さい！来年は、長崎県で行われる予定だそうです！

(めぐみ棟看護師 瀧口)



職員の異動

(11/1/1/31)

【退職】

三山 茜(保育士) 2/28
高野 由理子(事務員) 3/28
光本 智子(看護師) 3/31
仲田 陽子(看護師) 3/31
肥後橋久美子(看護師) 3/31
城戸 博法(言語聴覚士) 3/31
河野 幸子(歯科衛生士) 3/31
宮原 夏海(介護福祉士) 3/31
沖 安南(介護福祉士) 3/31
株木 孝子(食事介助員) 3/31
本間 ジュン(調理師) 3/31
小川 あゆみ(栄養士補助) 3/31

【採用】

中岡 孝子(食事介助員) 2/17
中上 真紀(准看護師) 3/4
登本 友花(調理師) 3/10
徳淵 幸加(事務員) 3/10
三田 愛(看護師) 4/1
原 理恵(看護師) 4/1
中原 絵美利(看護師) 4/1
吉見 知夏(看護師) 4/1
長池 彩香(作業療法士) 4/1
櫻井 美千代(言語聴覚士) 4/1
1 松村 裕恵(歯科衛生士) 4/1
石橋 哲弥(介護福祉士) 4/1
狩野 亜由美(保育士) 4/1
葛島 圭枝乃(保育士) 4/1
松田 真理(調理師) 4/1
高吉 美智子(食事介助員) 4/1
17 介護福祉士募集。(詳細はホームページをご覧のうえ、お問い合わせ下さい)
URL / <http://hisayama-smid.jp/>

イースター行事

四月十六日。キリスト教を土台としている久山療育園の大きな行事の1つとも言える、イースターという行事に参加しました。ご存じの方もたくさんいると思いますが、まず、イースターとは、「イエス様の復活祭」という意味であり、十字架にかけられて死んだイエス・キリストが三日目に復活したことを記念・記憶するという、キリスト教において最も重要なお祭りなのです。園では毎年恒例、「卵探し」を行っているのですが、では、なぜ、「卵」なのでしょう。一度は疑問に思った方もいらっしゃるのではないのでしょうか。先ほど上記したように、イエス・キリストは十字架上で死んでから三日目に復活されました。ちょうどヒヨコが卵の殻を破ってでてくるように、キリストも「死」という殻を破って蘇られた(生まれた)ということを象徴しているそうです。また、イースターには復活祭の他にも、春の訪れをお祝いするという意味もあるようです。その「卵探し」では、棟内に隠された40個の可愛く飾り付けられた卵を、利用者様・職員が二丸となつて、とても楽しそうに探さ

れていました。

イッツがあるということを聞いていたがために、ジャンケンをするのが怖くて怖くて、とてもハラハラしました。私は運良く全身タイツを免れることができたものの、「発芸をしなければならぬ」ということで、再び窮地に追い込まれた新人六人なのでした。元々人前に立つて何かをするということが得意ではないので、自己紹介に加えて「発芸をすることによってどうしようもない気持ちになり、ドキドキして手の冷汗が止まりませんでした。それぞれ衣装を着て、自己紹介や「発芸を行ったのですが、利用者様も職員の方

も楽しそうに笑ってくれていたの

で、ホッと安堵しまし

た。新人六人は、こ

のイースターが初め

ての行事だったた

め、緊張感やちょっ

とした達成感など、

それぞれなにか感

じるものが得られ

たものであったの

ではないでしょうか。



たまごさがし楽しいな♪

久山療育園は他の病院とは違って、このイースターであったり、園外活動や運動会、夏祭りやクリスマスといった行事がたくさんあります。それもこの療育園の魅力の一つなのではないでしょうか。これから、利用者様や職員の方々とより関係を深めていき、今後の行事などでも一緒に楽しい時間を共有していくことができるように、毎日一歩二歩努力して前に進んでいきたいと思っています。

(めぐみ棟看護師 原)

「マットの達人」

私は何人かの達人を知っている。中でも、これから紹介する達人は、ずばぬけている。その意欲・几帳面さは、仕事ぶりを見ればすぐに理解していただけるだろう。しかし、この姿を見ることができない皆さんには私がこうして伝えるしかないのがとても残念である。

毎日、朝食が終わると、デイルームにマットを八枚敷いている。利用者さんが横になるためである。ブロック式に凸凹を合わせてつなげていくマットで、スタッフも手こずる作業である。そこにやってくるのがひかり棟の鮫島隆之さんである。

「鮫島さん、今日もお願いできますか?」と声をかけると、「うんうん」と笑顔で答えてくれる。彼は、そつとマットに座ると徐に振り向き、トンと叩いたり、指で凸凹を抑えたり・・・その仕事ぶりは丁寧でありながらも、スピーディーである。

朝のあわただしい時間に、鮫島さんが快く手伝ってくれることでスタッフ一同大変感謝しているのだ。そして、鮫島さんは作業を終えると、静かに自分の時間を楽しまれる。「ありがとう! 助かりました!」そうスタッフから声をかけられると、また笑顔で「うんうん」と答えてくれるのである。

その笑顔からは、仲間たちのために率先して作業を行ってくれる鮫島

さんの優しさが伺える。

利用者の中には、様々な特技を持つ方がおられることを今後も皆さんに伝えていきたい。

最後に、「鮫島さん、いつも手伝って頂きありがとうございます。これからよろしくお願いします」

(ひかり棟療育主任 陣内)



今年度、初の園外活動

今から、たくさんさんの場所に園外活動に出かけるみんなよりも、一足お先にマリンワールドに行ってきました。メンバーは、入山秀美さん、東倉佳代さん、松尾貴光さん、吉長芽衣さんの4名。

快晴の天気の中、バスに乗り込むところから、元氣いっぱい。

みんなの大きな声、笑い声、喜ぶ顔がたくさんさんのバスは、海の中道まで、約40分のバスの旅。

マリンワールドに付くと、早速、昼ごはん。

トルコライスに、オムハヤ、肉うどん、ケーキ、アイスクリーム、たこ焼き、それぞれ、皆が、好きなものをたくさん食べて、すぐに完食。

食事時間が、少し早かったけど、たくさんさんのショーや水族館の中を探検するには、時間がもったいない。

イルカショーでは、ショープールの一番前まで行き、たくさんさんの海水を浴びたし、アクアライブショーではサメにつ



いての勉強もして、水族館内ではたくさんさんのきれいな魚や、おいしそう？な魚を見て、ゆつくりとすることが出来ました。

帰りのバスの車内は、久々の外出に疲れたのか、みんな静かになってましたが……。

今年度初の園外活動は無事に終了することが出来ました。後は、他のみんなからたくさんさんの楽しい思い出話を楽しみにしようと思います。

(めぐみ棟介護福祉士 島津)



お働きに感謝します —退職職員からのメッセージ—

久山療育園でめぐみ棟・ひかり棟

合わせて5年間働かせて頂きました。

思い出は話せば書ききれないくらいたくさんあります。夏祭りや運動会などの行事もそうですが、毎日関わっていく中で一緒に笑ったり、泣いたりふざけあったりしている時間が私にとってはかけがえのない時間でした。

自分の気持ちをなかなか伝える事が難しい重症児者の方に、介護者として出来る事をこの5年間精一杯やってきました。

私が関わっていくことでその方の反応が変わったり、たくさんさんの笑顔を見せてくれたり、そういうちょっとしたことにとてもやりがいを感じて

仕事をしました。

退職するのはすごく淋しいですが、これから自分の夢に向かって「人の為に」仕事をし続けていこうと思います。

今まで本当にありがとうございました。

(ひかり棟介護福祉士 宮原夏海)



めぐみ棟で1年間、ひかり棟で2年間の計3年間働かせていただきました。久山療育園での3年間はあっという間に過ぎていきました。利用者の方々とお過ごした毎日は私にとって、かけがえのない日々でした。笑わせてもらったことや、励まされたことも多々ありました。

利用者の方々を始め、利用者のご家族の方々、スタッフの皆様と出会えたことに感謝しています。今まであ

りがとうございました。本当にお世話になりました。

(ひかり棟介護福祉士 沖 安南)



通所でがんばってまーす!!

始園式



通所の新しいなかまです♪

平成二十六年四月二日。桜が散るボカボカ陽気のこの日、通所の始園式が行われました。今年度は、新たに六名の利用者さん(牛房久美子さん、松田真奈さん、柏谷陵さん、川名亜弥さん、貞兼彩花さん、徳永裕菜さん)をお迎えし更に賑やかになりました。

センター長の話を聞いて身を引き締めた後は、先輩利用者さん達とご対面!!

ドキドキしながらも自己紹介とご挨拶をしつかりとやり遂げ、皆からの温かい拍手が送られました。

大仕事を終え、ホッと一息ついたところで今度はこれまでの通所での活動や行事のビデオを見て予習です。

じっとスクリーンに見入る利用者さん達。これから始まる通所での新しい生活への期待感でいっぱいになったことでしょう。

皆の笑顔あふれる楽しい通所。新年度スタートです!!

(通所保育士 狩野)

「力をあわせて そっと そっと」

三月の一週目は一年のしめくくりとしてのお楽しみ会をしました。都合のつくお母様方も参加して頂き『バランスボール(玉入れ)』というゲームを行いました。

二チームに分かれて、ボールを不安定な台の上に乗せ、左右からヒモを引っ張り

ます。利用者様は腕や指や足・・・と、自分たちの力が

発揮できるところにヒモをかけ、引っ張ったり、緩めたりしながらその台を上げていきます。うまくボールを穴に落とせたら、次の方にバトンタッチ! 左右のバランス、お互いの力加減が

とても難しく面白いのです。最上段に入ったら、最高点の

三点! 下段だと二点、一点。入ったところの点数だけカゴにお手玉を足していきます。

慎重にゆっくり引っ張る方もいれば、一気に上まで進む方もいて応援にも力が入ります。

ボールが勝手に転がり落ちると・・・

「あーら・・・このボールおかしいんじゃない?」

「もうーヒモのせいだー」

「この台、曲がってるー・・・と悔しそう。」

そんな隣のチームでは、三点ばかりの連続大入りで大歓声!

最後にカゴのお手玉をみんなで数えて獲得した分のご褒美をもらって帰りました。

(通所看護師 佐伯)



うまく入るかな～?

外来療育 宇宙

はじめての

宇宙

通所での宇宙(そら)がスタートして二年目の春・・・今回は新しく二名のお友だちが仲間入りとなり、新たなスタートをきりました。お母さまもお子さまも初めての「宇宙」にウキウキ・ドキドキしながら、これから始まるいろいろな事に胸を大きく膨らまされていました。

はじめてのお部屋、はじめてのスタッフ、はじめてのお友だち、いろんな「はじめて」に出会った子どもたち・・・初回は「宇宙ってこんなところだよ」とお話をしながら、はじまりの歌をうたい、隣のお友だちと「ギュー」と手を握り合い、みんなでひとつの輪になって「てとてとて」を楽しく歌い過ごしました。すると・・・自然とお顔も緊張がとけ、すっかり笑顔になりました。また、療育活動、リハビリが終わった後は通所の方で昼食タイム・・・宇宙の子どもたちが通所に来ただけで「かわいー」と声をかけられ通所のお兄さん、お姉さん方ともすっかり仲良しになっています。

今年度は計六名のお友だちとなり、通所スタッフもお母さま、お子さまと共に楽しい二年間を過ごしていききたいと思っています。

四月は春を感じて、園庭へお散歩、五月はイチゴ狩りに運動会・・・今後も季節にに応じていろんな遊びを取り入れていきたいと思っています。どうぞよろしく願っています。

(通所保育士 汐田)



学校だより

卒業おめでとう!!

卒業式

3月3日高等部、3月7日小・中学部の卒業式が行われました。学校で行う予定でしたが、感染予防のため、どちらも久山療育園での卒業式となりました。

卒業生は、高等部は久保山信さんと野田由里子さん、小学部は深見亜弥さんと桃野光男

さん、中学部は草場雅文さんの5名です。ところが、桃野さんは、残念ながら、発熱後のため当日は出席できませんでした。

高等部も小・中学部も、それぞれきれいな花や飾りに囲まれ、お父様やお母様、ご兄弟、在校生、施設の職員さんに見守られ、緊張しながらも卒業証書を校長先生から受け取りました。

学校からPTA会長さんが高等部と小・中学部のどちらにも出席して下さい、お祝いの言葉を頂きました。

高等部では、田中由美さんと合屋勉さんがお祝いの言葉を贈り、卒業生代表で久保山信さんが担任の先生と一緒に、お礼の言葉を述べました。小・中学部では、鶴田力斗さんがお祝いの言葉を贈り、小学部、中学部のそれぞれで、通学生と一緒に

作ったビデオを流しながら、深見亜弥さんと草場雅文さんがお礼の言葉を述べました。

学校の友達と一緒に卒業式ができなかったことは残念でしたが、卒業生と一番関わりが深い方達からたくさんのお祝いの言葉をかけていただき、学校とはまた違う暖かい卒業式となりました。私たち訪問教育職員もとても感動しました。

卒業式に参加出来なかった桃野さんは、後日、修了式の日に行いました。素敵なスーツで身を包み、ちょっと緊張しながらも校長先生から卒業証書をしっかりと受け取りました。記念撮影では、皆に囲まれ、嬉しさの余り、花束を振り回して花をまき散らしてしまいました。桃野さんの喜びが伝わり、会場全体が笑顔に包まれ、和やかな卒業式となりました。

卒業おめでとうございませう。心よりお祝い申し上げます。

久保山信さんと野田由里子さんは、学校生活が終わりとなります。これからの施設での生活も今まで以上に心豊かであるよう願っています。

ピカピカの一年生

入学式

入学式は、4月8日に小学部、中学部、高等部合同で久山療育園にて行われました。

今年度の入学者は、中学部に深見亜弥さんと桃野光男さん、高等部に荻本明美さん、草場雅文さん、高尾宏子さんの5名です。入学式では、生徒会執行委員の中尾清寿さんが新入生歓迎の言葉を述べました。先輩としての風格を感じました。新入生の言葉は、草場雅文さんが代表で述べました。これからの高校生活に期待いっぱいという言葉でした。

桃野さんは初めての学校生活になります。荻本さんと高尾さんは待ちに待った高校生です。中学部、高等部にそれぞれ進学した深見さん、草場さんとともに、いろいろなことに挑戦し、好きなことをたくさん見つけ、思いっきり学校生活を楽しみましょう。心よりお祝いを申し上げます。心よりお祝いを申し上げます。福岡特別支援学校訪問教育一同心より歓迎いたします。

新入生5名を迎え、久山療育園では総勢22名の皆さんが福岡特別



支援学校の生徒と一緒に学びます。久山療育園の皆さんのサポートをいただいて、楽しい学校生活を送れるように取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(福岡特別支援学校

訪問教育職員一同)

食事は “楽しく夢のある食事”に

その1



テーマ：森の動物たち

栄養課では「見て美しく、食べて美味しく、食べやすく安全で、楽しく夢のある食事」を目標に掲げています。しかし、食べやすさを追求すると見た目や楽しさが失われ、行事食を頑張りすぎると食べにくくなります。柔らかさを優先すると色彩も悪く、カサが増えてしまう。嚥下機能に合わせたペースト食やムース食をきれいに楽しく演出するにはどうしたらよいのか？

そこで、これまでの調理・盛付の工夫に加えて流行のキャラ弁当をヒントにキャラクター・デコレーションを取り入れてみました。（カラーでご紹介できないのが残念ですが）栄養課スタッフが頑張ってくれました！その一部をご紹介します。



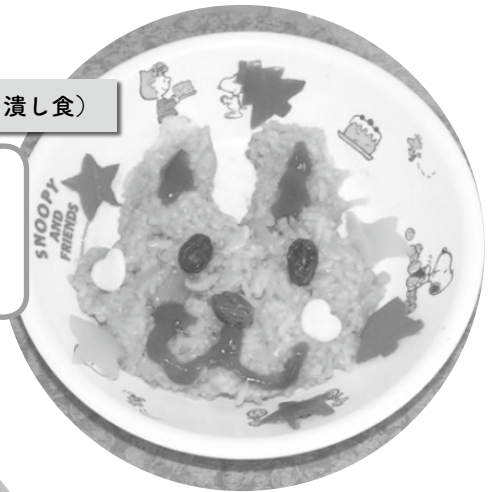
くまさんカレー（咀嚼食・押し潰し食）



ご飯はドーム型にして周りにカレーを盛り付けます。
ライスの上に干しレーズンで眼と鼻を、スライスチーズをおいてケチャップで口を描きます。茹卵を輪切りスライスにして耳にします。
パプリカ(カラーピーマン)の星を楽しく散らして、緑の野菜ブロッコリーを添えます。

うさちゃんライス(咀嚼食・押し潰し食)

ケチャップライスに干しレーズンで眼と鼻を、ケチャップで耳と口を描きます。周りにはパプリカ(カラーピーマン)で楽しく模った星や木をちりばめて、ほっぺは星形のスライスチーズを飾ります



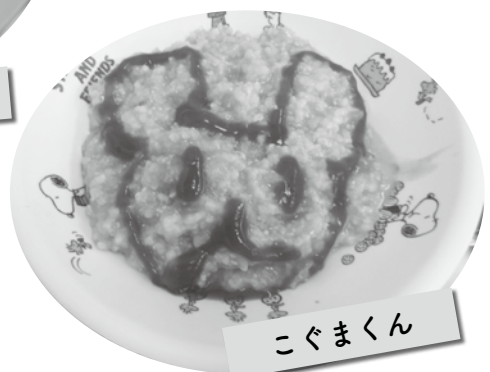
ペースト食(三色丼)を
いも虫くんに



ペースト食：くまさんカレー



こぐまくん



次回は「アニメの主人公たち」が
登場します。お楽しみに!!

栄養課長 中山裕子





藤田 英彦

「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」マルコによる福音書4章30、32節

俳句の「山笑う」という季語のように、久山を囲む山々の新緑も濃さを増して来ました。

イエスは、湖のほとりで舟に乗り、湖畔に集まるおびただしい群衆にいろいろなたとえでお話しになったことが、マタイ、マルコ、ルカの3共観福音書にそれぞれ出て来ます。イエスはご自身が語ら

れる「神の国」の福音のイメージをなるべく広く群衆に広げたいと考えて譬えを語られ、それを初代の教会の人々が折に触れて思い出して語り伝えていたのを福音書の記者たちが纏めて書き残したのでしょう。33節には「イエスは、人々の聞く力に应じて、このように多くのたとえで御言葉を語られた。ご自分の弟子たちにはひそかにすべてを説明された。」とあります。

譬えは単純です。この単純と思われる譬えで、「種」はイエスご自身、イエス・キリストのことです。その種が土に蒔かれる事を、からし種と麦の違いがあります。ヨハネ福音書12章24節に、イエスの言葉として「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが死ねば多くの実を結ぶ」とあるように、イエスが十字架の死を遂げられるということです。そのイエスが死んで葬られ、陰府に降られたのを、神は高く引き上げ、甦らせられ、新しい命を示された。これが聖書が伝える福音です。

パレスチナ地方では、この譬えに出てくるからし種は、直径1ミ

リほどの小さい種ですが地に蒔かれて成長すると4、5メートルの大きさになるそうです。それが成長して、その葉蔭に空の鳥が巣を作るようになるというのです。「空の鳥が巣を作る」これは、旧約聖書のエゼキエル17章23節、31章6節、また、ダニエル書4章21節にはレバノン杉ですが、これはただ自分が成長するだけで終わらず、他の小さい者、弱い者を受け入れ、共に生きるものとなることを予言しており、福音書の記者はこれを援用したのでしょう。またエゼキエルでは異邦人を受け入れることも意味します。確かにイエス様の福音の種が蒔かれています。この福音の種を信じ、力を信じて委ね、やがて他者と共に生き、他者のために仕えることを喜ぶ者、教会になりたいものです。



メモ帳

【1月】

▽10日 日本重症心身障害福祉協会認定・重症心身障害看護師研修（通所7名、1／11）

▽11日 九州地区重症心身障害看護師研修（参加者15名、看護部長8名、1／12）

▽12日 九州地区重症心身障害看護師研修運営委員会（福岡・長崎施設看護部長9名）

▽28日 通所成人式（参加数23名うち新成人利用者4名）

▽30日 ひかり棟病棟閉鎖（インフルエンザのため、2／11）

【2月】

▽6日 福岡県障害者福祉課社会参加係来園（2名）

▽17日 バプテスト四地方連合連絡協議会（小倉キリスト教会）／香蘭女子短期大学保育士通所実習（2名、2／28）

▽19日 神奈川県在住、定期的に園へ献金して下さっているご夫婦が来園

▽22日 チャリティコンサート（西南学院チャペル約270名が来場）

【3月】

▽3日 日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会理事會（博多グリーンホテル）／福岡特別支援学校高等部卒業式（入所者2名）／福岡女学院大学子ども発達学科通園実習（2名、3／14）

▽7日 福岡特別支援学校小中学部卒業式（入所者2名）

▽11日 在宅支援プロジェクト合同委員会（外部より7名来園）

▽12日 2013年度療育研究発表会

▽13日 消防立ち入り検査

▽14日 福岡看護高等専修学校施設見学（41名）

▽17日 福岡県私設病院協会看護学校オリエンテーション（学生35名、教員4名）

▽19日 福岡学校特別支援学校修了式・卒業式（ひかり棟入所者、修了式10名、卒業式1名）

▽20日 福岡学校特別支援学校修了式（めぐみ棟入所者7名）

▽26日 福岡特別支援学校合格者説明会

ボランティアだより

ボランティア活動のご案内

久山療育園には毎年多くのボランティアさんが来て下さり、様々な活動を通して園のために協力頂いています。

○活動内容

- ・食事介助
- ・ベッドサイドでの絵本読み
- ・サークル活動・行事への参加
- ・ベッド拭き・車椅子拭き
- ・洗濯物たたみ・縫い物作業
- ・窓拭きやペランダの清掃
- ・入浴後のドライヤーかけ
- ・コーヒー販売

年に2回、久山療育園のボランティアとはどういったものかを紹介する「ボランティア講習会」を開催しております。今年度も次の日程、内容で行う予定です。

○開催日時

- ・夏季コース 7月12日(土)
- ・冬季コース 11月8日(土)
- 9時30分～15時まで(※昼食はお弁当を用意しております)

いずれも同じ内容で行いますの

でどちらかのコースをお選びください。

○内容

- ・久山療育園と重症児者について
- ・ボランティア活動の紹介
- ・ボランティアさんの体験談
- ・保護者の体験談
- ・入園利用者との交流

重症児者へ関心をお持ちの方なら、どなたでも受講できます。どうぞお気軽にご参加ください。
ご質問・お問い合わせ先

092-976-2281(代)

ボランティア担当
山田(建)まで



第38回開園祭のご案内

テーマ「在宅支援プロジェクトの実現」

◎開催日時：2014年9月23日(祝) 9:30～14:30

◎開催場所：久山療育園重症児者医療療育センター室内及び屋外

今年も地域の方々にたくさんお越しいただき、ゆっくり利用者やご家族の方と触れ合っていたきたいと考えています。

皆様のご来園をお待ちしています。

スケジュール

喫茶・展示	09:30～14:00
感謝礼拝	10:00～11:00
公開療育	11:10～11:40
模擬店・食堂バザー	11:10～14:00
チャリティ商品バザー	11:40～14:00
ふれあい広場	13:30～14:00

※スケジュールは一部変更される場合があります。



昨年のバザー会場の模様

歩行器



二〇一四年度が始まりました。

この175号(6月号)をお読み頂く頃には、久山療育園運動会が実施され、フィナーレで全国の空に向けて放たれた利用者の方のメッセージ付きの風船を全国各地で拾っていた方からの返信が、何通か園に届けられています。頃かも知れません。

毎年の、風船が地に落ちて着地した時から始まるこのドラマに、顔も知らぬ善意の方々と重症児者との出会いを準備なさった神様の計らいを感じずにはいられません。

利用者や園への励ましや応援、『私もこんな困難がありますが、がんばります』等の気持ちのこもった返信メッセージに私たちもまた気持ちを新たにされながら、そして久山だけでなく多くの重症者の方とご家族や関係者の方の存在のある事を再認識しながら、働きの幅を広げて行きたいと考えています。

(T.M)